

第88回 医学教育セミナーとワークショップ

第25回国公私立大学医学部・歯学部教務事務職員研修 併催

2024年 5月22日(水)～24日(金) Web開催 ※WS-1対面

参加登録期間 2024年4月1日(月)～11日(木) [事前登録制]

Webinar: **TL**

非認知能力から見た医療系教育への示唆

小塩真司(早稲田大学)

WS-1: **TL** ※対面開催

学生の社会的情動的技能を育むアプローチを考える

西城卓也・川上ちひろ・早川佳穂・今福輪太郎(MEDC)／高橋美裕希・鷹羽律紀・堀田 亮(岐阜大学)

WS-2: **R**

コンセンサスを科学する ～Delphiアプローチ入門～

菊川 誠(九州大学)／橋本忠幸(大阪医科薬科大学)／小杉俊介(飯塚病院)／木戸敏喜(富山大学)

国公私立大学医学部・歯学部教務事務職員研修共同企画

WS-3: **A**

学習ポートフォリオ評価:基本と現状

猪田宏美(岡山大学病院)／油川ひとみ(東京医科大学)／藤崎和彦・早川佳穂(MEDC)

WS-4: **R**

Reviving Zombies ～埋もれているゾンビ研究を論文化しよう～

野村 理(弘前大学)／清水郁夫(千葉大学)／藤川裕恭(慶應義塾大学)／水本潤希(愛媛生協病院)／林 幹雄(関西医科大学)

タイムスケジュール

5/22(水)	10:00-16:00	WS-1 ※対面開催
5/23(木)	9:00-12:00	WS-2
	13:00-15:45	WS-3(教務事務職員研修共同企画)
	16:00-17:30	Webinar
5/24(金)	9:00-12:00	WS-4

実施要項



*記号(**TL**等)は、アソシエイト認定のための学習領域を表しています。詳細はMEDCサイトをご覧ください。
*各企画には定員を設けています。申込順にて受付いたしますので、ご了承ください。

第89回
愛知医大
2024/10/26

第90回
岐阜(Web)
2025/1/30-31

第91回
岐阜(Web)
第26回教務事務職員研修
2025 春

医学教育共同利用拠点
岐阜大学医学教育開発研究センター
〒501-1194 岐阜市柳戸1番1
TEL:058-230-6470 FAX:058-230-6468
E-mail:medc@t.gifu-u.ac.jp

MEDC

検索



非認知能力から見た医療系教育への示唆

小塩真司（早稲田大学）

概要：非認知能力は、知能検査や学力試験で測定される能力以外の、測定可能性、予測可能性、介入可能性の条件を備えた心理的な特徴のことである。知的能力への教育の偏重に対し、より望ましい心理的な特徴に関しても教育を行う可能性として、非認知能力が注目を集めている。非認知能力という概念そのものへの批判や教育実践上の困難さが指摘されるものの、非認知能力の枠組みの中には多くの教育上の示唆が含まれていると考えられる。本セミナーでは、感情制御や好奇心、動機づけなど広く非認知能力に関連する心の働きについて理解を深め、教育活動の中で何らかの形で活かしていくためのヒントについて議論したい。

WS-1 5月22日(水) 10:00-16:00 ※こちらのワークショップは対面開催となります

学生の社会的情動的スキルを育むアプローチを考える

西城卓也・川上ちひろ・早川佳穂・今福輪太郎（MEDC）高橋美裕希・鷹羽律紀・堀田 亮（岐阜大学）

概要：本WSは、医療系大学の教員や指導者向けに、学習者の社会情動的スキルを育成するアプローチに焦点を当てます。社会情動的スキルとは、一貫した思考・感情・行動のパターンに出現し、フォーマルまたはインフォーマルな学習体験によって発達させることができ、個人の一生を通じて社会・経済的成果に重要な影響を与えるような個人の能力といわれています。特に、感情調整・アイデンティティ・社会スキル・公共心・認知調整といった領域に焦点を当てています。本WSでは、参加者は、そのようなスキルを育むとされる社会情動的学習（Social Emotional Learning：SEL）の視点からこれまでの医療者教育の課題を議論します。そして社会情動的スキルを育成するための具体的な方策について議論します。またSELを導入する際の、教員の学生へのかかわり方についても議論します。そして参加者同士で、普段の活動の中で実践できるSELのアイデアを共有することを目指します。

対象：SELに関心のある医療系大学教員や指導者

定員：30名

WS-2 5月23日(木) 9:00-12:00

コンセンサスを科学する～Delphiアプローチ入門～

菊川 誠（九州大学）橋本忠幸（大阪医科薬科大学）小杉俊介（飯塚病院）木戸敏喜（富山大学）

概要：今回、医療者教育研究手法の一つとしてのDelphiアプローチを紹介したい。Delphiアプローチはアメリカのランド研究所で開発された。技術や環境等の未来を予測するための技法である。アンケート方式で専門家から意見を集約し、その回答分布を各自にフィードバックし再考する。この作業を繰返し、回答が固定されてきた時に終了する。この方法を応用し、医学教育研究の中では未解決のテーマについてコンセンサスを作る手法として普及しているが、実際にやってみると、具体的にどうすればいいのか困難を抱えることも多い。このワークショップでは、あるテーマでコンセンサスを作ることを研究課題にしたい方や、研究手法として本アプローチ自体に興味のある方を対象に、事例を交えて解説を行い、実際に体験してもらうことで理解を深める企画としたい。

対象：本テーマに関心のある方

定員：30名



国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修共同企画 学習ポートフォリオ評価:基本と現状

猪田宏美(岡山大学病院) 油川ひとみ(東京医科大学) 藤崎和彦・早川佳穂(MEDC)

概要: そもそも、ポートフォリオは、複数の書類をひとまとめに持ち運べるケースを意味している。医療者教育においては、ポートフォリオ評価は、学生が学習過程で残したレポートや試験の結果、プレゼン資料、活動の様子を残した動画や写真などを収集し、個々の学習のプロセスや個人の成長を用いて学習評価に役立てる方法である。従来のペーパー試験だけは測れない、個人の総合的な能力を評価することができる。近年、ポートフォリオは、学習管理システムと紐づいており、作成や運用にかかる手間は減ってはきているものの、学習者にとっては、面倒な事務作業と捉えられることが多い。ポートフォリオ評価は、医療系学生の卒前および卒業後教育で多用されているが、その教育的な意義を十分に発揮するためには、導入前に十分な説明を学生に実施し、長期間にわたる運用においては、教員がポートフォリオを活用した形成的評価に関わる必要がある。今回、学習ポートフォリオ評価の基本を学び、現状について考えることを目的とする。

対象: 教員、事務職員

定員: 20名

Reviving Zombies ~埋もれているゾンビ研究を論文化しよう~

野村 理(弘前大学) 清水郁夫(千葉大学) 藤川裕恭(慶應義塾大学) 水本潤希(愛媛生協病院) 林 幹雄(関西医科大学)

概要: 熱い想いで研究計画をして、倫理承認も得てデータを収集し、学会発表までしたのに論文にはならず、PCの奥深くのフォルダで眠っているゾンビ研究はありませんか?

本WSでは、参加者の皆様に持ち寄って頂いた「ゾンビ研究」を小グループでのピアレビューワークで、議論を繰り返しながら論文の骨格を作り上げて生き返らせることを目標とします。具体的には、「なぜ論文出版が必要なのか」、「医学教育研究の特性とは」、「研究のパラダイム」、「ゾンビになりにくい研究とは」、「ゾンビになりにくいライティングとは」、「論文の投稿の決め方」などをディスカッションのトピックとする予定です。

尚、以下の2点を参加要件とさせていただきます。

- ・将来的に論文執筆にまで到達させたい学会発表(倫理承認を得ている研究テーマ)を終えている研究テーマを持ち寄っていただける方
- ・本WSで共有される個々の研究情報について、運営側、受講生含めて守秘することをルールと致します。そのルールを遵守いただける方

対象: 医学教育学会等の学術集会で医療者教育研究について抄録作成・学会発表を経験されている方 定員: 16名
医療者教育研究の論文執筆への意志があるが、上記の研究が論文投稿にまで至っていない方

参加登録方法

MEDCホームページよりお申込みください
「MEDC」で簡単検索できます

参加登録期間: 2024年4月1日(月)~11日(木)

参加を希望される方は、上記期間内に参加登録をお願いします。
各企画には定員を設けています。申込順にて受付いたしますので、ご了承ください。
なお、当日参加は受付いたしません。

参加費: 2,000円(税込) [別途、振込手数料]
(学部学生、東海国立大学機構 教職員・大学院生 無料)

開催方法: Web開催 (Zoom)

※WS1のみ対面開催 [開催会場: 岐阜大学医学部]